



主張

健康であること、安全であること

大谷伸一

「響かせろ！無限の歌声」。昭和五十七年度に始まった本校の二大学校行事である、校内合唱コンクールを、四年ぶりに全校生徒が体育館に集まり、保護者参観のもとで開催することができました。生徒会テーマ「∞(無限)」を目指して、それぞれの学級が、これまでのドラマとその中で育んできた絆を「合唱」として合唱(うた) 上げる。その姿を目の前にして、ようやく学校が戻ってきたなあと深い感慨を覚え、目頭が熱くなりました。そして、束の間の週末を挟んだ月曜日の朝、職員室のホワイトボードの前で、二つの感染症による欠席が生徒や教職員の間に広がっていなかったことに、ほっと胸を撫で下ろしている私がいいます。

先日、本県教育委員会が推進する「学校防災アドバイザー派遣事業」の防災教室講習会に参加し、特別支援学校と中学校の実効性のある避難訓練の取組に触れ、学校防災アドバイザーとして多くの学校の連携体制や防災教育の充実に携わった専門家の方の御講演を拝聴する機会を得ました。「教員から与えられたシナリオどおりに行動する避難訓練は意味がない。」との指摘は、「第三次学校安全の推進に関する計画」(令和四年三月)において、学校の作成する計画・マニュアルに基づく取組の実効性に課題があるとされていることと



軌を一としており、気が付くと、私の手元の資料は自分のメモでいっぱいになっていました。南海トラフ地震発生の切迫性が高まっている中、学校のハザードリスクや校舎の耐震性等を改めて把握し、「香川県シェイクアウト（県民いっせいで震防災行動訓練）」を機に、窓側の数人の生徒が窓ガラスの破片で負傷した、授業をしていた教員が昏倒して動くことができないなどの状況を設定し、あなたのクラスはどのように避難するのかと問いかけ、生徒たちとともに考え、試行錯誤する訓練を構想しています。

思えば、昨年度の修学旅行は、訪問先と実施時期を変更しながらも、当初の計画どおり三泊四日の行程で実施しました。市教育委員会の支援を受け、先導車・後続車の配備と看護師の帯同を手配し、校長と教頭が引率に加わるなどの体制を整え、学校運営協議会、市教育委員会の定例会で説明し、承認と了解を得る過程で、教職員はもちろん、生徒たちと連携し、感染拡大を防ぐ工夫と準備を重ねました。校長と学年主任で変更した訪問先を事前に訪問し、見学施設や宿泊施設等の状況を確認することも必要となるなど、健康と安全を確保することの大切さと難しさを痛感しました。

ここ数年の社会の変化は、学校現場にとって、これまで前提であり基礎であった、健康であること、安全であることを、大きな目標へと変えました。

生徒たちが、そして教職員が健やかで安らかであることは、新しく策定された教育振興基本計画がコンセプトとして掲げたウェルビーイングの向上につながります。当たり前ではなくなった健康と安全を、学校や家庭、地域で対話を重ね、時間と手間をかけながら、共に育むことが求められています。

（全日中副会長・香川県善通寺市立西中学校長）